

短期集中C型の



みんなで考えよう well-being ⑩

TRAPE 代表 CWD/作業療法士 ともひろ 鎌田大啓

高齢者を特別な存在として捉えすぎない

私たちは日常生活において、どのような活動をするのか、どのような環境に身を置くのかについて、すべて自己選択・自己決定を繰り返している。

多くの社会に依存しながら生き、そしてこの中で悩み、しかし自分なりのウェルビーイングな日常を感じながら生きている。

その視点を軸に考えると、何かしら虚弱な状態になってし

ウェルビーイングをデザインできる

医療介護専門職にアップデート

まった高齢者を特別な存在として捉えすぎることではなく、私たちと同じ文脈で捉えて、一緒に個々の高齢者の人生ストーリーと向き合うことが重要です。

21世紀は健康について包括的にアプローチする時代に

どうしても高齢者は身体機能面の低下、認知面/心理面の低下、活動/社会参加面の低下などがクロースアップされがちです。しかしそれらは全て一人の高齢者の日常の一要素でしかないのです。

健康について、20世紀はWHO（世界保健機関）がいう肉体的・精神的・社会的にそれぞれの分野で各専門家が専門性を追求してきました。21世紀はそれらの要素を包括的に捉え、ウェルビーイングという視点の追求が健康には重要だという流れになっています。

今こそアンラーニングとリスキリング

我々がデザインした短期



集中サービスは1人のウェルビーイングな日常をデザインすることそのものです。ここでは、専門職が積み上げてきたものだけではなく、ウェルビーイングをデザインするという新たな知見・スキルを医療介護専門職は取得する必要があります。

のです。

医療介護専門職に必要なことはアンラーニングとリスキリングです。アンラーニングとは、

本質的な価値観を認識し、より進化させるために今の知識・スキル・習慣などをアップデートすることを言います。
また、リスキリングとは、今後業界において必要となるスキルなどを得るために再教育することを言います。このような流れはイギリスでも起きています。

高齢者に向かい合う
総合力を訓練するには

これから医療介護専門職に必要な力とは「常に1人の人を主人公にしてStoryを見出す力」「ひとの強み/タレント性を見出す力」「外部環境の強みと個人の関係をデザインする力」「対話する力」「コーチ力」「適材適所で専門性をデザインして提示する力」「チームマネジメント力」などと言えるでしょう。

これらの知識やスキルを取得するためには、座学だけでは不十分です。社会人の成長における「70:20:10の法則」にあるように、直接的経験、つまり実際のケースとの向き合いが成長要因の70%、その中でアドバイスをもらい学ぶという間接的

経験が20%で、医療介護専門職をアップデートしてくれるのです。

これをオンラインで取得するための「Club TRAPE」を実施しています。現在全国の多様な医療介護専門職が活用し、ウェルビーイングをデザインできる専門職へと進化しています。

現在の知識・スキルレベルは問題ではありません。そんなことより「目の前の方をウェルビーイングにしたい!」の思いと、今からの泥臭いチャレンジが重要です。ぜひみなさんもアップデートしましょう。

Club TRAPE: <https://trape.jp/service/club-trape/>